

内閣総理大臣 橋本龍太郎殿

### 日ロ首脳会談への要望書

私ども日本ユーラシア協会は、1957年創立以来40年にわたり、日本国民とロシア連邦国民及びその他のユーラシア大陸の旧ソ連諸国民との友好親善と世界の平和のために活動している民間友好団体です。

そのような団体として、私どもは、来る11月1、2日に貴職が、先般公表された対ロ外交の三原則（信頼・相互利益・長期的視点）に基づいてロシア連邦大統領ボリス・エリツィン氏との首脳会談に臨まれることにつき深い関心をもち、日ロ両国民の友好の発展という観点から、貴職に対し、以下のことを要望する次第です。

1、日ロ両国の最大の懸案が平和条約締結であることはいまでもありません。戦後50年を経てなお平和条約が締結されていないことは、まことに異常というほかありません。私どもは戦後史の中でこの問題が複雑化されてきた経緯、日ロ（日ソ）両国政府のこの件に関する交渉経緯を承知しておりますが、それがいかに複雑であろうと、漫然と問題の解決を先送りしたり、逆に当面の「国益」のために将来に禍根を残す処理ですませることは、許されないと考えます。戦争による領土拡大は現代国際法の原理にもとること、他方対日講和条約2条C項で千島が放棄されていること（その帰属については不確定のまま）など、問題の原点に立ち返り、国際正義と国際法の原則に依拠して、経過的処置とともに、道理ある問題解決の方途を明らかにするよう、要望いたします。

2、当面のさし迫った課題と考えられる事柄について、以下の三つの要望を申し入れます。

- (1) 今日、人類の生存のために核兵器の廃絶を求める声がますます高まっていることは、ご承知のとおりです。世界最初の前核爆国であり非核三原則を国是とする日本の政府が、核兵器廃絶について国際的に主導的な役割を果たそうとしなかったことは、国民のまことに遺憾とするところでありますが、今回の日ロ首脳会談において、貴職が日本、ロシア、朝鮮、中国、モンゴルを包括する北東アジアの非核地帯宣言のための交渉を提言されるならば、日本政府の世界平和への国際貢献として評価されるでまいしょう。すでに1985年には南太平洋非核地帯条約が、1995年には東南アジア非核地帯条約が締結されています。本年2月には非核地帯条約協議のため、中央アジア5カ国首脳会議が開催されています。これに加えて北東アジア非核地帯が成立すれば、核兵器廃絶にとって大きな前進となり、昨年の国連総会で決議された核兵器禁止国際条約締結準備を大きく促進することになりましょう。これを提言されるよう要望いたします。
- (2) 今年1月のロシアタンカー事故は、日本海地域の環境汚染問題をあらためてクローズアップさせました。タンカー事故の原因調査、事故防止と事故発生時に被害を最小限に抑えるための対策につきロシア政府と緊密な協議を行うことはもとより、日本海の環境保全にむけた国際的協力体制を可及的速やかに構築することが求められています。これは、両国国民の生活に直結することがらであり、両国の緊密な協力は両国民の相互理解に資するものとなりましょう。日ロ首脳会談でこの点について実務的合意を形成されるよう要望いたします。
- (3) 今回日ロ首脳会談が行われるクラスノヤルスク地方は、戦後2万人余の日本人が抑留された主要地域の一つです。この地域には、抑留中に死亡した者が2千人以上埋葬されているといわれております。クラスノヤルスク市近郊にも墓地があります。会談の機会に日ロ両首脳がそろってその墓地を訪れるならば、日ロ両国民の相互理解と友好親善に寄与するところ少なくないと考えます。貴職にこのことを要望するとともに、日ロ両政府が、旧ソ連地域の全死亡者と埋葬地の調査・確認および墓地の保全について実務的な合意を行うよう要望する次第です。

1997年10月15日

日本ユーラシア協会 会長 藤田 勇